

Rotary



週報

ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度国際ロータリーのテーマ



No.01301 2021.4.12 第25例会

◆本日のプログラム

4月12日(月)
外部卓話
「宗治の遺言と子孫の動向」
株式会社三松 代表者
清水宗治直系
清水 男 様

◆次回のプログラム

4月19日(月)
「創立記念例会」
クラブの歴史について
藤岡 温 会員
横山 俊彦 会員

Rotary Opens Opportunities

◆理事・役員 (2020.7～2021.6)

会 長 平 松 信
副 会 長 相 原 利 行
幹 事 鈴 木 一 生
副 幹 事 久 松 哲 生
理事・S.A.A. 野 田 洋 市
副 S.A.A. 児 島 正 典

会 計 西 岡 貞 則
理事・職業奉仕 橘 高 正 剛
理事・社会奉仕 原 全 伸
理事・国際奉仕 小 菅 英 司
理事・青少年奉仕 鴨 井 利 典
理事・会員増強 竹本 千代子

理事・プログラム 入 江 直 人
理事・親睦活動 福 元 裕 之
理事・ロータリー財団 小 松 忠 男
直 前 会 長 山 下 浩 一
次 期 会 長 岡 本 浩 三

地区のスローガン

「こころの扉を開こう」

クラブのスローガン

「こころを一つに」

岡山北西ロータリークラブ

●例会場 岡山市北区駅元町1-5 ホテルグランヴィア岡山

●例会日 毎週月曜日 12:30～13:30

国際ロータリー 第2690地区 第9グループ

事務所 〒700-0902 岡山市北区錦町1-8 岡山県木材会館4階

TEL (086) 222-9590・222-0384 FAX (086) 224-4288

E-mail : hokusei@ok6rc.jp <http://okayama-hokusei-rc.jp>

友好クラブ 京都朱雀ロータリークラブ

E-mail:suzakurc@mbox.kyoto-inet.or.jp

内部卓話

「黎明期の日本の医学とその後の歩み」

岡本和夫 会員



701年、『大宝律令』が制定されて国の統治の形が整いました。二官八省のなかの宮内省に典薬寮があり、宮廷官人への医療や医療関係者の養成および薬園等の管理を行いました。長官は典薬頭で、その下に助、允、大属、小属があり、実務は医師、針師、按摩師、呪禁師、薬園師があたりました。732年、典薬頭には修験道の開祖といわれる役小角の弟子の韓国広足が就任していますが、のち典薬頭には、和気清麻呂を開祖とする和気氏や日本最古の医学書『医心方』を編纂した丹波康頼に始まる渡来系の丹波氏が世襲しています。また、こののち長く仏僧が医師を兼ねることが普通でした。

唐から仏教や医術などさまざまな文化が入ってきましたが、その唐も907年に滅び、その後中国は五代十国の時代を経て、宋の時代へ入っていきます。12世紀になると南は南宋、北は金の支配となり、その後徐々に蒙古すなわち元の時代に移っていきました。この金元の時代に李東垣、朱丹溪の提唱した医学が隆盛し、李朱医学、金元医学として室町時代以降の日本に影響を及ぼしました。ともに足利学校で学んだ田代三喜は我が国の「李朱医学」の開祖とされ、弟子の曲直瀬道三は足利義輝、三好長慶、織田信長、明智光秀などを診察しました。道三は78歳の時、キリシタン大名の大友宗麟の地、府内でイエズス会の直教師オルガティンを診察したことがきっかけで、キリシタンに入信、洗礼名はベルショールといいました。

西欧の学術が入ってきた歴史には、大きく分けて3つの段階があります。まず第一期は、1549年ザビエルが鹿児島に上陸しキリスト教の宣教師が、そして1557年から南蛮貿易が始まりポルトガル・スペインの文化、医術では南蛮外科が入ってきました。第二期として、1639年から始まった鎖国政策により、対外関係は朝鮮、琉球、明・清の中国とオランダに限定されていた関係で、唯一オランダから蘭学という形で入ってきました。最後は、1853年にペリーが来航し和親条約が締結されて以降、イギリス・フランス系の学術が入ってきました。

1639年から1854年まで続く鎖国時代の前半の医学には、李朱医学の日本化を試みた道三医学の踏襲・洗練を旨とした後世派、そして後漢末期から三国時代に張仲景が編纂した伝統中国医学の古典『傷寒論』による古医方を研究・実践した古方派がありました。古方派は経験主義的実証主義を重んじ親試実験を信条としました。後藤艮山は髪を束ね平服を着用して、それまでの僧医から、医業が仏教から独立して医師の社会的地位が確立する契機となったといわれています。後藤の弟子の山脇東洋は1754年、京都において日本で初めて腑分け・人体解剖を行いました。ほかに幕府の医学所「医学館」の総裁を代々務めた多紀氏らの考証派や華岡青洲らの漢蘭折衷派がありました。

八代将軍吉宗（在位1716～1745）の時に小石川養生所が開設され、また青木昆陽の薦めで蘭学の禁を解き、蘭書の輸入を奨励しました。杉田玄白、前野良沢、中川淳庵らは、ドイツ人医師クルムスの解剖書『Anatomische Tabellen』のオランダ語訳『ターヘル アナトミア』を携えて、1771年千住小塚原の刑場で行われた刑死体の人体解剖を観察しました。解剖書の図と腑分けの所見とが完全に一致していることに驚嘆して、『ターヘル アナトミア』を翻訳しようと決心しました。約4年の歳月をかけて『解体新書』を刊行、翻訳は前野良沢が担当しました。表紙の絵は、秋田蘭画一派の小田野直武の作で、アダムとイヴが描かれています。

吉宗の治世以降、一気に蘭学の機運が盛り上がりました。仙台藩医大槻玄沢は名のとおり、杉田玄白と前野良沢に心酔し、両名から蘭学を学びました。また長崎にも出向き、1786年江戸に蘭学塾「芝蘭堂」を開設、ここから宇田川玄貞ほか多くの俊才が育っていきました。伊藤玄朴、戸塚静海とならび江戸時代後期の三大蘭方医の一人といわれる坪井信道は玄貞の弟子で、診療に対する慈愛の姿勢から「生き菩薩」と称されました。坪井の門から緒方洪庵や箕作阮甫らが出ています。

日本近代医学の祖と称される緒方洪庵は、1810年足守藩士の子として生まれ、1825年父親の大坂勤番に伴い大坂へ出ました。中天游の私塾「思々斎塾」に入門し、その後江戸へ出て、坪井信道、宇田川玄貞に医学を学びました。26歳の時長崎へ遊学し、オランダ人医師ニーマンの下で医学を学びました。2年後大阪へ帰り、最初瓦町でのちに北浜で、「適々斎塾（適塾）」を開設しました。1862年伊藤玄朴らの推挙を受け、奥医師兼西洋医学所頭取となりました。緒方の門から、福沢諭吉、大村益次郎、長与専斎、佐野常民、大鳥圭介など幕末から明治時代初期にかけて活躍した多くの有能な人物を輩出しました。

蘭学ことに医学を志す者に多大な影響を及ぼした人にシーボルトがいます。博物学者でもあった彼は、日本における自然科学調査の目的もあって、1823年オランダ商館の医官として来日し、7年間長崎に滞在しました。診療所を兼ねた鳴滝塾を開設し、二宮敬作、高野長英、伊藤玄朴、戸塚静海らが学びました。医学や科学の講義以外に、塾生には日本の動植物などの分布や生育地の状況などのレポートを課しました。楠本滝と所帯をもち、イネをもうけています。1826年にはオランダ商館長の江戸参府旅行に随行し、第11代将軍家斉に謁見したほか、宇田川榕庵や蝦夷探検家最上徳内らに会いました。特に間宮林蔵の樺太測地図の写しなど蝦夷の地図の収集がのちにスパイ容疑をかけられ、シーボルト事件に発展し国外追放となりました。伊藤玄朴や戸塚静海も連座し入牢しました。1858年日蘭修好通商条約締結によって追放処分が解かれ、再来日し滝・イネと再会しました。

ボンペは長崎の海軍伝習所の教育隊の一員として来日し、教授として日本初の系統だった医学を教えました。明治維新後初代陸軍軍医総監となる松本良順や岩佐純、長与専斎、佐藤尚中、司馬凌海など、近代西洋医学の定着に大きな役割を果たした面々が学びました。なお、伝習所附属の西洋式病院はのちの長崎大学医学部の母体となりました。

江戸後期に漢方から蘭方へと軸が移っていききましたが、道のりは平坦ではありませんでした。幕府奥医師で幕府の医科大学ともいえる「医学館」の総裁の血を引く多紀元堅・楽真院は、嘉永2年「蘭方医学禁止令」を出しました。長崎医学伝習所を取りつぶそうという魂胆も見えていました。時は、ペリー来航の騒ぎのまっただ中で、第13代将軍には家定が就任しました。家定は生来病弱で暗愚であり、将軍継嗣問題が浮上し、幕末の四賢侯といわれる薩摩の島津斉彬、土佐の山内容堂、越前の松平春嶽、宇和島の伊達宗城は英明である人物として一橋徳川家の慶喜を推しました。この一橋派に対して南紀派の老老井伊直弼は紀州徳川藩主の慶福、のちの第14代将軍家茂を推し対立が激しくなりました。そのような中、家定が病床についてしまいました。奥医師多紀楽真院は診察の結果、「脚気衝心」で余命は12時間という見立てをしました。安政の大獄を成就しなければならない井伊直弼は、家定にはもう少し生きてもらわねばならぬと考えて、7月3日蘭方医で名医の伊藤玄朴を奥医師に任命しました。こうして幕府の「蘭方医学禁止令」は解け、玄朴はシーボルトのもとでともに学んだ戸塚静海を呼び寄せて診察、「脚気衝心」と診断し、余命48時間と見立

てました。そこで直弼は家定の息のある内に、家定の名で尾張徳川慶勝、水戸の徳川斉昭、越前の松平春嶽を処罰し、安政の大獄を仕上げました。時に1858年7月5日でありました。

現在の順天堂大学の創始者佐藤泰然は蘭方医を志して高野長英らに師事し、長崎へも遊学し、34歳の時に両国薬研堀に「和田塾（和田は母の姓）」を開きました。5年後の1843年、佐倉藩主堀田正睦の招きで佐倉へ移住、病院兼蘭医学塾「佐倉順天堂」を開設しました。当時の最高水準の治療で、鼠径ヘルニア、乳癌手術、卵巣嚢腫などを手がけています。佐藤尚中は養嗣子でポンペに学び、1869年大学大博士として大学東校現在の東京大学医学部を主宰しています。松本良順は次男で松本家へ養子に出、ポンペの医学伝習所の責任者となりました。

明治新政府の医療政策で、イギリス医学とドイツ医学のどちらを採用するかに関し論争や対立がありました。イギリス人医師ウィリスは1862年江戸へ着任し、1868年1月から始まった戊辰戦争では、新政府軍・幕府軍に対し分け隔てなく献身的な治療を行って尊敬を集めました。戊辰戦争後は東京医学校兼病院と1カ年の医療と医学教育に携わる契約を結び、新政府はイギリス医学を採用するかにみえました。明治2年医学校は大学東校になり、佐倉順天堂の蘭医佐藤尚中が大学大博士になりました。新政府の医学取調御用掛の岩佐純と相良知安はともに長崎で学んだ蘭方医で佐藤一門の流れをくんでいました。ドイツ派の主張は、蘭方医が学んできた医学書の多くはドイツ書の翻訳であり、シーボルトの影響が絶大であったことに加えて、岩佐や相良をはじめとした役人や医学・病院の幹部はポンペ、ボードウィン、松本良順らの流れにある蘭方医であるという点にありました。また、政府大官は当時のビスマルク宰相率いるプロシアの君主政体の魅力を感じていたことで、ドイツ医学採用を主張しました。一方、イギリス医学を推す派は、戊辰戦争の時のウィリスの献身的な活躍に恩義を感じており、英学が蘭学にかわりつつある時代背景と福沢諭吉や医学校内部の英国派の教授の主張を後ろ盾にしています。イギリス医学は臨床重視、ドイツ医学は研究重視という特徴をもっていました。結局、大学南校の教頭アメリカ人フルベッキの意見「現在の医学は、ドイツ、とくにプロシアが第一」が決め手となり、1869年2月相良と岩佐は太政官にドイツ医学採用を進言し決着がつきました。

戊辰戦争で活躍したイギリス人医師ウィリスは1837年北アイルランドで生まれ、エディンバラ医科大学で学んだのち1861年外交官および医官として来日しました。生麦事件、薩英戦争や戊辰戦争に立ち会い、ことに戊辰戦争では、幕府軍や新政府軍の区別なく治療に当たり、日本に赤十字精神をもたらしました。アーネスト・サトウは「これほど人情味のある医師はいない」と評しています。新政府と1カ年の契約を結び、「西洋医学」を創設しました。しかし、新政府のドイツ医学採用によりやむなく東京を離れ、西郷隆盛や医師石神良策の招きで鹿児島へ向かい、鹿児島大学医学部の前身の鹿児島医学校を創設しました。1877年西南戦争勃発で妻子を残して帰国、再来日したものの西郷隆盛と親しくしていたが故に立場が悪く、戦が見つからないまま帰国しました。高木兼寛はウィリスの指導を受け医学校教授となり、1881年東京慈恵会医科大学の前身の成医会講習所を創設しました。

長岡藩軍医の長谷川泰は1842年の生まれで、順天堂に入門し佐藤尚中や松本良順に師事しました。「済生救民」の思想を体得し、また戊辰戦争の北越戦争では河井継之助の最期を看取っています。1869年大学東校に移り、ミュルレル、ホフマンよりドイツ医学を学びました。1876年に日本医科大学の前身である済生学舎を開校しました。卒業生には、野口英世、小口病の小口忠太やのち東京女子医科大学を創設する吉岡弥生らがいます。

明治時代になり、1871年10月から岩倉具視らが欧米へ視察旅行に出ました。医学のみならず欧米の技術を導入するため、いわゆるお雇い外国人を招聘しました。長谷川泰が学んだミュルレルやホフマンの他に、多大な貢献をしたベルツがいました。ベルツは1849年の生まれで、ライプチヒ大学医学部を卒業、大学病院に入院していた日本人留学生を治療した縁で、1876年東京医学校（現在の東京大学医学部）に招かれ、以来26年間にわたって指導しました。寄生虫病、急性・慢性伝染病や脚気などの病因究明に道筋をつけました。無条件に西洋の文化を受け入れようとする日本人に対して厳しい批判を述べています。「お雇い外国人を学問の果実の切り売り人として扱うだけで、根本の精神を理解しようとしません」と嘆いていました。1964年バーリンガー・インゲルハイン社によって、日独両国間の医学面での親善関係を深めていく目的で「ベルツ賞」が設立されました。特に内科学のすぐれた研究に贈られる権威のある賞です。こうして日独間に交流の架け橋ができて、東大病理の初代教授の三浦守治や同級の森林太郎（鴈外）、感染症医学の発展に貢献した北里柴三郎など多くの秀才がドイツを目指しました。

前回4月5日の例会記録

出席の状況

会 員 数	47名(内出席免除者 0名)	出席者数	35名
欠席者数	12名	出席率	74.47%
欠 席 者	花房、樋口、入江、鴨井、楠、三宅、森本、岡村、奥田、田原、丹治、山田		

会長報告

会 長 平 松 信

「今年より春知りそむる桜花 散るといふことはならはざらなむ」(紀貫之)

今年初めて春を知り、美しい花を咲かせても、散ることだけは見習わないでほしいという『古今和歌集』の歌です。もし、桜がずっと咲くのであれば、七分咲きか、満開がよいのかと選ばなければなりません、散ってほしいのは新型コロナです。



岡山市が高齢者施設の入所者を対象とした新型コロナワクチン接種の拠点病院を発表しています。最初は4月12日から岡山済生会外来センター病院の関連施設から開始し、4月19日以降から5つの病院(岡山医療センター、淳風会大供クリニック、岡山労災病院、岡山市民病院、そして川崎医科大学総合医療センター)の関連施設で実施が予定され、合計およそ65の高齢者施設で975回分のワクチン接種を実施することになります。一般の高齢者のワクチン接種は、5月19日から県内一斉で始まります。

新型コロナワクチンの効果については、感染予防(接種した人が感染しない)は実証が難しいです。発症予防(発症者が減少)、重症化予防(重症患者、死亡・入院等が減少)は、臨床試験等で評価を行うことができます。集団免疫効果(接種していない人にも波及する予防効果)は、大規模な接種後まで分からないとされています。

インフルエンザワクチンでは、一定の発症予防効果や、重症化を予防する効果が示されていますが、集団免疫効果はこれまで実

証されていません。この集団免疫効果はロータリーの活動には有効になりますので、インフルエンザワクチンなどでアレルギーのない方は、新型コロナワクチン接種を受けていただければと思います。しかしながら、多くの要素がありますので、最終的にはご自分でご判断をお願いいたします。

本日の内部卓話は、岡山北西RC第27代会長の岡本和夫会員で、テーマは「黎明期の日本の医学とその後の歩み」です。岡本和夫会員の職業分類は脳神経外科医で、平成18年2月に岩本一壽会員と梶谷喬元会員（初代、2代会長）の推薦で入会されました。

岡山北西RCソングの素晴らしい作詞をしていただきました。クラブソングを歌う度にいつも感謝申し上げております。芝蘭の友との交わりができる楽しいロータリー、友と一緒に真実(まこと)の道を歩もうとする夢多きロータリーとして、岡山北西RCの会員のこのろを一つにしてくださっています。

卓話をお聴きするのを楽しみにしています。よろしくお願い申し上げます。

幹事報告

幹事 鈴木 一生

- ① ガバナーエレクト事務所より、次期ガバナー補佐堀川会員、山田会員に地区委員の委嘱状が届いております。
- ② 本日の卓話の資料、ガバナー月信Vol.10、ロータリーの友4月号を配付しております。
- ③ 4月のロータリーレートは1\$ =110円です。
- ④ 倉敷南RC創立60周年記念誌、他クラブ週報を回覧いたします。
- ⑤ 本日例会終了後、13:30より3F「エメラルドの間」において「第10回理事役員会」を開催いたしますので、理事役員の皆様はご出席ください。
- ⑥ 次週4月12日(月)の例会には、川本平山ガバナー補佐、鳥越貞成IM副実行委員長が「IM終了のご報告とお礼」にお越しになりますので、ご出席よろしくをお願いいたします。



スマイル報告

平松会長：岡山北西RCの通算第1300回例会を開催できますことを会員の皆様と一緒に感謝したいと思います。

岡本和夫会員の内部卓話を聴かせていただくのを楽しみにしています。

相原副会長：先日のIDMにご参加いただいた皆様、ありがとうございます。与田会員・井川会員今後ともご参加よろしくお願い致します。

鈴木幹事：鴨井会員ご尊父様のご冥福をお祈り申し上げます。

岡本和夫会員、本日の卓話よろしくお願い致します。

久松会員：岡本先生、本日の卓話楽しみにしております。よろしくお願い致します。

野田会員：先週29日開催のIDMは小松会員の解りやすいお話ありがとうございました。

岡本和夫会員の本日の卓話楽しみにしています。よろしくお願い致します。

日笠(常)会員：先般3月23日の夕方のテレビのローカルニュースで令和3年全国地価公示に関し、専門家として短い解説をしました。ひかさつねのぶとネットで検索したら、地価公示、地価調査などに続き、岡山北西RCと続きます。当クラブの名誉を汚さないように、少なくとも岡山県内では一層の自己研鑽に励むつもりです。

竹本会員：岡本和夫会員の卓話楽しみにしています。

岡本(浩)会員：岡本和夫会員の卓話楽しみです。良く聴いて勉強します。

山下会員：第2回IDM参加の皆様御出席ありがとうございました。

岡本会員本日の卓話楽しみにしています。

小林会員：早退します。申し訳ありません。

クラブ情報

10件28,000円（累計1,088,500円）

4月お祝い行事

例会情報

本日のメニュー（4月12日）

金目鯛のボワレ 春野菜添え ホワイトアスパラのサラダ ソースムースリース
バニラのムース ローズhipとハイビスカスのジュレ パン コーヒー

次回のメニュー（4月19日）

ホタテ貝とほり鳥賊のディスク クーリトマト
国産牛とフォワグラのハンバーグ トリュフソース
リ・オレと苺 ホワイトチョコレートのムース パン コーヒー



前回メニュー(4月5日)：鰻焼井